

三朝町子ども・子育て支援事業計画 平成 29 年度 進捗状況の点検・評価について（概要）

三朝町では「子どもの笑顔は“三朝町”の宝～元気いっぱいみささっ子～」を基本理念に、三朝町子ども・子育て支援事業計画に基づき、幼児期の教育・保育と子ども・子育て支援の充実を図り、本計画に沿って各種の子育て支援施策（事業）を展開しています。

本計画に定めた子育て支援施策の点検・評価を行い、質の高い保育や幼児期の教育、ニーズに応じた子育て支援事業の実現にむけた、現在の取り組み内容やその進捗状況を確認することで、新たな課題の抽出や効果的な事業展開に役立てるとともに、今後の施策及び事業の見直し・改善に役立てていきます。

なお、点検・評価にあたっては、「三朝町子ども・子育て会議」がその中心的な役割を担い、町民の皆さんに公表します。

(1) 子ども環境の整備

【学校教育・保育の量の見込み】

子ども・子育て支援新制度の目的のひとつである「待機児童の解消」に対応できるよう学校教育・保育施設及び地域型保育事業の今後の児童数を予測し、確保対策に努めています。

認定区分		項目	計画値	実績値	評価	点検・評価結果
1号	3～5歳児 学校教育のみ	①量の見込み	10	3	維持	認定こども園として、就学前の子どもに対する教育部分の役割は必要であり、引き続き、円滑な事業実施に努める。
		②見込みに対する確保数	10	3		
		特定教育・保育施設	10	3		
		地域型保育事業	—	—		
2号	3～5歳児 保育の必要あり	①量の見込み	125	105	維持	今後も保育需要に適切に応えられるよう受け入れ態勢を維持し、継続実施に努める。
		②見込みに対する確保数	125	105		
		特定教育・保育施設	125	105		
		地域型保育事業	—	—		
3号	0～2歳児 保育の必要あり	①量の見込み	110	94	維持	3号認定児のうち、特に0歳児の入所希望が増加している。高まる低年齢児の保育需要に応えられるよう体制整備に努める。
		②見込みに対する確保数	110	94		
		特定教育・保育施設	110	94		
		地域型保育事業	0	0		

(2) 子育て家庭への支援

新制度は共働き家庭だけでなく、すべての子育て家庭を支援する仕組みです。保健師による乳児全戸訪問や、ご家庭で子育てをする保護者が身近なところで子育て相談などが受けられる「地域子育て支援拠点」、放課後児童の生活の場として利用する「放課後児童クラブ」など、地域の様々な子育て支援事業の提供体制の確保やその実施時期を明確にし、進捗管理を行っています。

	事業名	計画値	実績値	評価	点検・評価結果
①	利用者支援事業 子どもや保護者が身近な場所で教育・保育施設や地域の子育て支援事業等の情報提供と相談・助言を行う事業	1 箇所	1 箇所	維持	切れ目のない子育て支援の事業展開を図るため、「子育て世代包括支援センター」の安定的な運営を目指す。切れ目のないニューボラ推進事業を展開する。
②	時間外保育事業（延長保育事業） 保育認定を受けた子どもの保護者の勤務条件や家庭事情を考慮し、利用時間の範囲外の保育を延長する事業	320 人	215 人	維持	保護者の就労形態の多様化、核家族化の進行等に伴い、今後も需要が高まると見込まれるため、職員の確保に努め、円滑な事業実施を行う。
③	放課後児童健全育成事業（学童クラブ） 就労等により昼間家庭に保護者等がいない小学生に対し、授業後の適切な遊びと生活の場を提供し健全育成を図る事業	129 人	107 人	維持	小学校統合と並行した放課後児童活動拠点施設のあり方について構想していく。
④	子育て短期支援事業 保護者の疾病や就労等で養育が困難な児童を養護施設等に入所させ、必要な保護を行う事業（ショートステイ事業・トワイライトステイ事業）	7 人	0 人	維持	利用実績は無かったが、核家族やひとり親等の養育支援サービスの選択肢の一つとして、今後も児童養護施設との事業連携を行う。
⑤	乳児家庭全戸訪問事業 生後2か月までの乳児のいる全ての家庭を訪問し、子育て支援に関する情報提供や養育環境等の把握を行う事業	43 件	34 件	維持	産後早期に訪問する体制を整え、すくすく訪問につなげていく。
⑥	養育支援訪問事業・要保護児童対策事業 養育支援が特に必要な家庭を訪問し、養育に対する指導、助言等を行うほか、関係機関との連携のもと、要保護児童支援等への対応を協議する事業	5 人 1 回 3 回 10 回	2 人 1 回 3 回 9 回	維持	子育て世代包括支援センターを拠点として、養育支援が必要なケースについて、スタッフ間で情報共有を図り、関係機関を含めた早期発見と予防体制の充実を図る。
⑦	地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター） 乳幼児や保護者が相互交流する場所を開設し、仲間づくりや育児不安の悩み相談・助言等を行う事業	3,000 人	2,294 人	維持	子育て世代包括支援センターの訪問事業と連携し、孤立育児家庭の利用促進を図るとともに、SNS等の情報発信に努め、養育家庭が利用しやすい体制整備を図っていく。利用者のニーズに沿った支援や相談体制の確保を行う。
⑧	一時預かり事業 急病や冠婚葬祭等で家庭での保育が一時的に困難となった乳幼児を、昼間に保育施設で預かり、必要な保育を行う事業	135 人 ※延べ数	240 人 ※延べ数	維持	社会の変化に伴う保護者の養育ニーズに応え、保護者の育児への負担軽減のひと役を担うサービスであることから、受け入れ態勢を整え継続実施する。低年齢児の一時預かり利用が増加傾向にある。今後も需要が増加すると想定されることから、職員体制の維持等に努めていく。
⑨	病児・病後児保育事業 病児及び病後児を病院に敷設された保育専用スペースで一時的に保育する事業	各 1 箇所	各 1 箇所	維持	感染症の流行期に限らず年間を通して利用が見込まれるため、今後も中部1市4町の連携事業として、養育者ニーズに応えていく。
⑩	ファミリー・サポート・センター事業 仕事と子育ての両立したい保護者と支援者を結び会員組織で育児の援助活動をサポートする事業	まかせて会員 15 人 お願ひ会員 20 人	8 人 18 人	維持	支援を受けたい人と育児を援助したい人の双方について周知し、気軽に利用できる体制を整える。

⑪	<p>妊婦健康診査事業</p> <p>妊婦の健康の保持増進を図り、安心、安全な出産に向けて適切な健康診査を行う事業</p>	<p>43人 602回</p>	<p>54人 515回</p>	<p>維持</p>	<p>妊婦健診の受診券 14 回分の発行により、適切な時期での受診に繋がっている。今後も安心・安全な妊娠・出産が出来るよう経済的な支援を継続する。</p>
---	---	---------------------	---------------------	-----------	---